

二〇二三年に慶讃法要 ご消息発布される

御正忌報恩講法要初日の一月九日、午後二時からの速夜法要に続いて御影堂でご消息発布式が行われました。

ご門主は「親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年についての消息」で、二〇二三年に慶讃法要をお勤めすることをお示しになりました。

親鸞聖人御誕生八百五十年 立教開宗八百年 についての消息

来る二〇二三年には、宗祖親鸞聖人のご誕生八百五十年、また、その翌年には立教開宗八百年にあたる記念すべき年をお迎えするにあたり、二〇二三年に慶讃法要をお勤めいたします。

親鸞聖人は承安三年・一七三年にご誕生となり、御年九歳で出家得度され、比叡山で修業を重ねられました。二十九歳の折、山を下りて法然聖人の御弟子となられ、阿彌陀如来の本願念仏の世界に入られました。その後、専修念仏停止によって越後にご流

罪になられ、赦免の後には関東に赴かれて他力念仏のみ教えを人々に伝えられることにも、『教行信証』の執筆にとりかかれしました。他力念仏のみ教えがまとめられた本書は、浄土真宗の根本聖典という意味でご本典と呼ばれています。

諸法無我というこの世界のありのままの真実をさとられたことに始まりません。翻って私たちは、この執われのないおさとの真実に気づくことができず、常に自分中心の心で物事を見て、悩み、悲しみ、あるいは他人と争ったりしています。釈尊は、このような私たちをそのままに救い、おさとの真実へ導こうと願われたのが阿彌陀如来であることを教えてくださいました。そして、親鸞聖人は、この阿彌陀如来の願いが、南無阿彌陀仏のお念仏となっては続き続けてくださっていることを明らかにされたのです。

ありのままの真実に基づく阿彌陀如来のお慈悲でありますから、いのちあるものすべてに平等にそそがれ、自己中心的な考え方しかできない煩悩具足の私たちも決して見捨てられることはありません。

し」とおっしゃったように、阿彌陀如来のお心とあまりにもかけ離れた私たちの生活を深く慚愧せざるをえません。しかし、この慚愧の思いは、阿彌陀如来の悲しみを少しでも軽くすることができればという方向に私たちを動かすでしょう。

平成三十一年 一月九日
二〇一九年

龍谷門主 釋專如

法語の世界

《原文》

おなじく堺の御坊にて、前々住上人(蓮如)、夜更けて蠟燭をともしさせ、名号をあそばされ候ふ。その時仰せられ候ふ。御老体にて御手も振ひ、御目もかすみ候へども、明日越中へ下り候ふと申し候ふほどに、かやうにあそばされ候ふ。辛勞をかへりみられずあそばされ候ふと仰せられ候ふ。しかれば、御門徒のために御身をばすてられ候ふ。人に辛勞をもさせ候はで、ただ信をとらせたく思し召し候ふよし仰せられ候ふ。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百二十九

《現代語訳》

同じく堺の御坊で、蓮如上人は、深夜、蠟燭をともしさせてお名号をお書きになりました。そのとき、「年老いたので、手も震え、目もかすんできたが、お名号を求めているご門徒が、明日、越中に帰るといので、こうして書いているのである。つらいけれども書くのである」と仰せになりました。このように上人は「ご門徒のために、わが身を顧みず大変ご苦勞されたのです。一人々に苦勞をさせずに、ただ信心を得させたいと思つている」と、上人は仰せになりました。

春季彼岸会法要のお知らせ

とき 三月二十一日(木) 午前九時半
ところ 金光寺本堂
勤行 正信念仏偈(草譜)・六首引き
講師 未定
その他 経本・念珠・式章(門徒・仏婦会員)をご持参ください。

法要終了後、仏教婦人会総会を開催します。

金光寺からの連絡

◎ 初盆会について

初盆会について、日時を決め、お齋の予定をお立ての際は早目にご連絡ください。受付順に日時を決めます。本年も初盆会をお迎えになるお宅が多くなりそうです。

◎ 法事について

昨年末に、本年ご法事の連絡を該当されるお宅にお届けしています。1月中にご法事をおつとめになることなく、何の連絡もないお宅が2軒ありました。ご法事をおつとめにならない、或いは雪などを心配し、後日にご法事を延期される際は必ず一報ください。